

西之島、海鳥戻る

上陸調査でトンボも確認

2016.10.26

た。できるだけ人の影響を減らして、これがどう変わるか見守っていきたい」と語った。

西之島は噴火前、9種類^①の海鳥が繁殖する「海鳥の楽園」として知られていた。噴火後に多くはなくなつたが、今回の調査で、噴火前からある旧島部分を中心に海鳥が確認された。

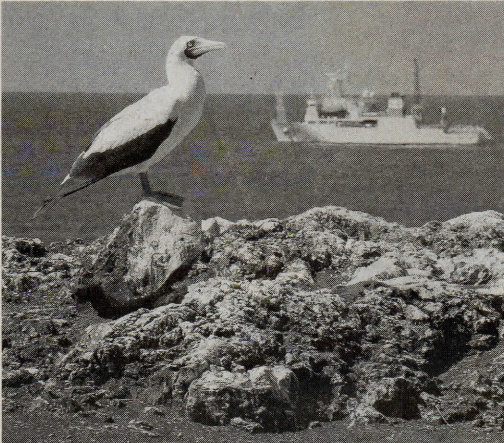
チームは、島の西側14

地点で数百匹から数千匹の溶岩を採取し、植物や昆虫を持ち帰った。地震計のほか、海鳥などの鳴き声を録音する機器も設置した。武尾実・東京大

地震研究所教授は調査船が帰港した神奈川県横須賀市で「溶岩は3つの異なる時期にできており、西之島の変化を明らかにできるだろう」と話した。

火山活動で面積が拡大した小笠原諸島・西之島（東京）で、噴火後初めての上陸調査を終えた研究チームのメンバーが25日、噴火後に島に戻って

定着したとみられる海鳥の写真を公開した。海鳥のアオツラカツオドリやカツオドリがいるのを確認。渡り鳥のアトリも島に立ち寄っていた。



西之島への上陸調査で確認されたアオツラカツオドリ（20日）＝環境省提供